

「薪を背負って本を読んでいる」金次郎の銅像を、あなたもきっと見たことがあるでしょう。勤勉の象徴として多くの学校に銅像がありました。しかし、実は勤勉ではなく、勤労こそ金次郎が重んじていたことなのです。

道徳のまち笠松委員会では、第9回「道徳のまち笠松のつどい」の講師を、二宮金次郎の7代目の子孫である中桐万里子様に依頼しました。

中桐様のお話を伺いたいと思ったのは、金次郎の残した思想の一つに「経済のない道徳は寝言であり、道徳のない経済は犯罪である。」という有名な言葉があったからです。そして、この言葉こそ道徳のまち笠松にふさわしい言葉ではないか。「嘘のない笠松町民を育てることや、笠松町で作った商品や製品が嘘や偽りがなく日本中から信用されることこそ、道徳のまちに値する。」と考えました。

思えば平成19年に「笠松町道徳のまちづくり条例」が制定されてから10年目

になる今年に、金次郎にまつわる話が聞けることも意味深いことだと思います。講演会の詳細は、14ページをご覧ください。



講師 中桐 万里子 氏

～「道徳のまち笠松のつどい」の講演～

	日付	講師氏名	演題
1	平成21年2月4日	柳田 邦男 氏 ・ノンフィクション作家	大変な時代にこそ“こころ”を ～親・地域とこどもの発達～
2	平成21年11月1日	曾野 綾子 氏 ・作家 ・随筆家	住みよい町にするために
3	平成23年2月5日	角田 識之 氏 ・経営アドバイザー	志の民たれ!笠松人
4	平成24年2月19日	中野 良子 氏 ・女優	人と人 心と心のふれあうまちの魅力
5	平成25年3月2日	越川 禮子 氏 ・江戸しぐさ名誉会長	いきで素敵な江戸しぐさ
6	平成26年3月1日	林 覚乗 氏 ・僧侶	心ゆたかに生きる
7	平成27年2月28日	林家 卯三郎 氏 ・噺家	「落語国の住人たち」 ～寄り添って生きる～
8	平成28年2月28日	宗次 徳二 氏 ・CoCo壱番屋創業者	「人生を成功に導く5つの実践」
9	平成29年3月5日	中桐 万里子 氏 ・二宮金次郎(尊徳)の7代目子孫	「七代目が語る二宮金次郎」 ～日常にねむる幸せの種～

かきまつの民話「昔むかし」

畑つなぎ ③

「これは、さつまさまの工事にまちがいがあったのじゃ。そのため、加納の殿さまの領地に大水が出なくなり、わしら南部の百姓が水びたしになるのだ。」

兵蔵の考えは、そうかたまってきた。しかし、これを代官所に申し出ることはできなかった。それは、江戸の徳川さまの政治に反対することであつたし、そのとおりであつても死罪になることはまちがいなかつたからだ。

庄屋さまの勇気

兵蔵の八十三歳の正月であつた。

兵蔵は重い風邪にかかり、もう自分は死ぬのではないかと思つた。このまま死ぬのは、村人を救うことにもならん。



「どうせ死ぬなら最後のご奉公じゃ。」
兵蔵は、熱のあるからだをひきずつて、柳津村の庄屋奥村元右衛門さまに訴え出た。

前々から兵蔵と同じ考えをもつていた元右衛門は、同じ村の庄屋渡辺藤左衛門・伊藤丹蔵・北宿村庄屋野田勘衛門に話して、庄屋さま方の口からお代官さまへ申し出る事になった。

四人は、代官所へさし出す手紙を書き終わると村の主だった者をよび集めた。
「わしら四人は代官所へ、さつまさまの工事のために村々が大水になるのだと申し上げてくる。さかい川にも堤を造らせてくれとも申し上げてくる。」 (つづく)

※かさまつの民話「昔むかし」は昭和54年に発行されました。中央公民館 松枝公民館 総合会館でご覧いただけます。